

彩色仏画 「迦陵頻伽」



「迦陵頻伽」天保十一年(1840) 絵師 松吉 樵溪  
 この彩色画は、建中寺徳川家霊廟・唐門天井画の見取図です。彩色画を調査して浮かび上がってきた絵「迦陵頻伽(かりょうびんが)」で正面側と背面側に描かれていた。迦陵頻伽は、仏教経典にある極楽浄土に住む声の美しい鳥で、人頭鳥身の姿で浄土曼陀羅など、多くの仏画に描かれている図像。美しい声で法を説くという想像上の鳥。



「曼陀羅図」天保六年(1835)絵師 川村某等拾八人



上部の宮殿の左右に人頭鳥身の鳥が飛ぶ絵が描かる



「涅槃畫(画)」元禄六年(1693)絵師 未朶氏 勝秀



涅槃畫の左下の象の左横で足のある人頭鳥身の鳥

建中寺徳川家霊廟修復工事

霊廟の創建は寛政十年(1798)で創建当初は、唐門の天井画は金箔であった。42年後の天保十一年(1840)に、尾張最後の御用絵師 松吉 樵溪が描いた。天井板を、外したら唐門屋根裏から、梁に修理銘文が発見された。



右から、天保/十一子/とし/御彩色/御用懸/被仰/肝煎/伊市/十右衛門/樵溪

○菩提寺徳興山建中寺からみた尾張徳川家  
 天明 5 年(1785)建中寺は大火にて延焼する。  
 天明 6 年(1786)再建にかかる。天明 7 年に  
 本堂・鐘楼・御内仏殿・書院・庫裡等落成。  
 御霊屋は四廟建立。塔頭三院も再建。  
 寛政 10 年(1798)九代宗睦は源敬様御霊屋建立。



本堂内陣正面 献銅鏡 径400  
裏面に銘文 張州徳興山建中寺  
本堂圓鏡寛政十歳  
戊午六月再鑄之

寛政11年(1799) 源明公廟(九代宗睦)造営。  
寛政12年(1800) 十代斉朝尾張家家督を嗣ぐ。  
文政元年(1818) 霊仙院御霊屋(千代姫)修復。  
文政3年(1820) 高原院御霊屋(春姫)修復。  
文政10年(1827) 十一代斉温家督を嗣ぐ。  
文政11年(1828) 経蔵(内輪蔵付)上棟。  
天保6年(1835) 江戸で曼陀羅絵を描き供養。  
天保10年(1839) 源僖公廟(十一代斉温)造営。  
〃 十二代斉荘尾張家家督を嗣ぐ。  
〃 故宗春の罪を許し、大納言を追贈する。



(従二位権大納言)  
贈重相二品章善院殿厚譽字式源逞大居士 尊儀  
高さ327cm

平和公園建中寺墓地 七代宗春公御墓塔

天保11年(1840) 源敬公廟唐門天井画を描く。  
天保13年(1842) 近江八幡を藩領に編入。  
弘化2年(1845) 源懿公廟(十二代斉荘)造営。  
〃 十三代慶臧尾張家家督を嗣ぐ。  
嘉永2年(1849) 源欽公廟(十三代慶臧)造営。  
〃 十四代慶勝尾張家家督を嗣ぐ。  
嘉永3年(1850) 源順公廟(十代斉朝)造営。  
安政5年(1858) 十五代茂徳尾張家家督を嗣ぐ。  
文久3年(1863) 一六代義宣尾張家家督を嗣ぐ。  
明治元年(1868) 明治維新。  
明治4年(1871) 霊仙院御位牌を増上寺へ発遣。  
明治初期 源敬御霊屋に五廟の御位牌を合紀。  
明治8年(1875) 城内の東照宮を明倫堂へ移転。



「伽陵頻伽」天保十一年(1840) 絵師 松吉 樵溪

江戸後期には、四廟・源敬様御霊屋・霊仙院御霊屋の六廟が祀られていた。明治には、源敬様御霊屋に五廟の御位牌を合紀し、他へ移築または取り壊される。

源敬公廟唐門に天井画を描いて、28年後に尾張徳川家は終わり、明治維新と移行する。



墓股見取図 唐門 正面 「龍」



拝殿 手挟みの彫刻 「三光鳥」

## 徳興山 建中寺